DVD 地域や保育施設の実情を踏まえた特色ある遊びの例

園庭を生かした遊び

ダンボール遊び

どんな遊び？

園庭の地形を生かし、体全体を動かせるダイナミックな遊びをしましょう

奈良教育大学附属幼稚園には広い園庭があり、「こどもの森」と名づけられた、ツリーハウスやどんぐりテラスなどのある遊び場など、豊かな自然の中で子供たちが生き生きと遊べる環境が構成されています。

ねらいと活動展開のポイント

バランスを維持する身のこなしが自然と身に付く

ダンボールの中で、全身を使って方向を変えたり、体のバランスをとったりして遊ぶなかで、自然と体のバランスをとる動きや状況判断・予測などの思考力や判断力等が培われます。友達や親子で一緒に遊ぶことで、コミュニケーションの楽しさを感じることができます。

場所をいろいろ変えることで遊ぶ意欲が増す

園庭に十分な広さや起伏がない場合は、公園や土手など、場所を変えて行ってみましょう。場所が変わることで、子供たちの好奇心を刺激し、遊ぶ意欲が高まります。

やってみよう！ ダンボール遊び

●ダンボールをつなぎ輪にする

ダンボールをクラフトテープでつなぎ、子供たちが入れる大きさの輪を作ります。はじめは平らな場所で思いのままに遊びます。

●斜面で転がって遊ぶ

慣れたら、斜面で挑戦します。斜面では転がるスピードが増すので、スリルと冒険心がかきたてられます。人数を増やすと転がり方が変化するなど、より楽しい遊びになるでしょう。
※安全には十分留意して行います。

●ダンボールを敷いてすべり台にする

斜面にダンボールを敷くだけで、大きなすべり台のできあがりです。ダンボールをそりのようにしても良いでしょう。どんなすべり方ができるか、安全なすべり方はどんなものかを子供と一緒に考えながら楽しみましょう。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

●体を前向きや横向きにしたり、中に入る人数に変化をつけたりすると、いろいろな動きが生まれます。友達同士で体の向きなどを相談し、自ら遊びを工夫するように声かけしましょう。ただし、危険なすべり方や転がり方をしないよう、保育者は安全に十分配慮してください。

遊びのバリエーション

▶運動会の種目に活用する。

●普段の遊びを少しアレンジして運動会の種目にできます。親子参加型にするなど、チームで対抗する機会があれば、子供の「やってみたい」「面白そう」といった気持ちをより膨らませることができます。

保育者の声

『遊んでいるうちに思わず動いた動きが面白い』

子供たちの自然な動きを引き出すように援助しています

・こちらが意図した動きより、遊んでいるうちに思わず子供がした動きの方が、面白く、動きが複雑で、多様な動きにつながります。子供たちが「こう動きたい」という思いをうまく引き出すように援助しています。

国立大学法人奈良教育大学附属幼稚園（奈良県）

幼児数：134名　職員数：14名　（平成28年1月28日現在）

広い園庭や園内外の恵まれた自然環境を生かし、戸外での遊びを十分に体験できるようにしている。

DVD 地域や保育施設の実情を踏まえた特色ある遊びの例

園庭を生かした遊び

園庭の環境を上手に活用した遊び

どんな遊び？

園庭にある木や園にある遊具など、保育施設の環境を活用して日常の遊びを広げましょう

木や山などの自然物や固定遊具など、
その保育施設ならではの子供たちが親しんでいるものがあります。
ロープやコーンなどの保育施設にある遊具を組み合わせ、日常の遊びに変化をつけ、子供たちの遊ぶ意欲やイメージを広げましょう。

※ 木登りなどの大きな動きをする場合は、動きやすい服装に留意してください。また、木登りは、必ず保育者がいるときに行うことを徹底しましょう。

ねらいと活動展開のポイント

遊具の組み合わせの工夫で新たな遊びを生む

園庭の自然物や固定遊具は子供たちが毎日親しんでいるものです。そこに、ロープやコーンを組み合わせると、新たな遊びが生まれます。子供たちが遊んでみたいと思える環境づくりが大切です。

既成概念にとらわれない発想を

すべり台はすべるもの、なわはなわ跳びをするものなど、遊具の既成概念にとらわれず、すべり台を登るなど、自由な発想で考えることで、子供たちの挑戦意欲がわきます。すべり台を登る時は、上から人がすべってこないことを確かめる等、安全についての指導も併せて行うことが大切です。

やってみよう！

園庭の環境を上手に活用した遊び

●木にロープを垂らす

園庭にある大きな木にロープを垂らします。はじめは、ぶら下がってゆらゆらしているだけでも、通常にはない感覚が楽しめます。

●スクーターとコーンの組み合わせ

スクーター遊びも、コーンを置くだけで、子供たちの想像力と挑戦意欲がかきたてられます。コーンをどう使うかは子供たちの自由な発想に任せます。

●ロープにつかまり登り降りする

ロープにつかまり、結び目に足をかけ、木の感触を楽しみながら、登り降りします。ロープの太さや結び目の位置を変えると、遊びに変化が生まれます。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

●既成概念にとらわれないで、固定遊具と身近にあるものを組み合わせて、遊びの環境を整えましょう。子供たちが遊ぶ姿を見て、工夫を加えたり、様々な動きを引き出せるような配置、動線を予想した場の構成にも気を配ります。

保育者の声

『子供たちをほめる機会が増えました』

保育者も子供も風邪をひかなくなりました

・大好きな木にロープを使って登れることで有能感や達成感を感じられるようになったようです。できた時に、見て見てとアピールするので、ほめる機会が多くなり、子供たちが自信をもつようになりました。
保育者も一緒に遊んでいるうちに体力が付き、子供たちと一緒に目一杯体を動かすことを楽しんでいます。

長井市平野児童センター（山形県）

幼児数：59名　職員数：10名　（平成28年1月28日現在）

地域との交流が盛んな保育園。大きなプラタナスの木は、園のシンボル。鉄棒や柔軟体操などを無理なく毎日の遊びに取り入れている。